



香美



No.65



響け! 鳴子 北の大地へ

第20回YOSAKOIソーラン祭りに、
ヤーレンソーラン積丹町&香美市(写真)が
17回連続出場しました。(札幌市)

特集

交流20年・姉妹都市盟約10周年

よさこいが結んだ友好の絆 2~7P

吉井勇記念館だより 星祭り ~旧七夕まつり~ 8P

まちの話題  18~19P

第15回 **かみかみクイズ** 20P

2011





はせがわ がく
長谷川 岳 さん

YOSAKOIソーラン祭りの創始者。積丹町と香美市の交流に深く関わりがある。現参議院議員。40歳。

交流への想い

両 市町の交流のきっかけとなった旧土佐山田町の宿泊施設の提供は、YOSAKOIソーラン祭りの発展にも大きく影響しました。北は『積丹の海』、南は『香美の森』と、共に自然豊かな環境に囲まれながらも互いに補完し合うような新しい交流の発展をお手伝いしていきたいと考えています。

長谷川岳参議員議員

講演会開催 8月5日(金) 時間未定

～ソーラン節とよさこい鳴子踊りの出会い～

北と南の交流の軌跡

場所 香美市役所 3階会議室

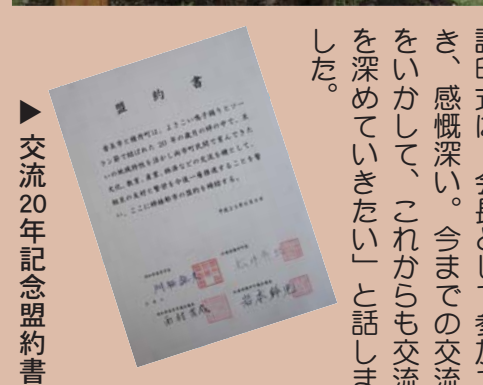
※国会審議の状況により、中止となる場合があります。

【問い合わせ先】まちづくり推進課 ☎53-1061

復活前夜祭



①山田太鼓伝承会の演奏②踊り子として参加した土佐山田町の紫苑流演舞③ヤーレンソーラン積丹町&香美市の踊り披露



交流20年記念盟約書

高知県香美市・北海道積丹町 姉妹都市盟約調印式



積丹町長(右)と固く握手を交わす市長

記念行事開催

6月9日、積丹町と香美市の姉妹都市盟約10周年記念式典が積丹町総合文化センターで開催されました。香美市からは、門脇市長を団長とする6人が出席しました。記念式典の後、記念植樹が行われ、YOSAKOIソーラン祭りの創始者である長谷川岳氏の講演会が開催されました。

翌日には、香美市からYOSAKOIソーラン祭りに参加する踊り子隊が合流し、5年ぶりに復活した積丹町前夜祭で、よさこい鳴子踊りを披露しました。
西山武香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会会長は、「平成14年の姉妹都市締結の際には、立会人として参加させてもらった。10年の節目の調印式に、会長として参加でき、感慨深い。今までの交流をいかして、これからも交流を深めていきたい」と話しました。

特集

交流20年・姉妹都市盟約10周年

よさこいが結んだ友好の絆



北海道積丹町と香美市の姉妹都市盟約10周年を記念し、記念行事が積丹町で行われました。また、YOSAKOIソーラン祭りに今年も、積丹町と香美市の合同チームが参加し、交流を深めました。



⑤みんな笑顔で⑥踊り始めの決めポーズ⑦後ろ姿も決まっています⑧両市町の参加者でパシャリ



西村芳成実行委員長は、「YOSAKOIソーランへの踊り子派遣は、市民の皆さまからの多大なご寄付により事業を継続することができている。特に今年は積丹町との姉妹都市盟約10周年という記念する年であり、積丹町での前夜祭は友好の絆を深めた」と話しました。



YOSAKOIソーラン祭り

YOSAKOIソーラン祭り
平成4年、よさこい祭りの鳴子と北海道の民謡ソーラン節をミックスして誕生。
毎年6月に、北海道札幌市で開催され、現在では観客200万人強の北海道有数の観光資源。札幌市の中心街にある大通公園を中心に、街中が祭りの熱気に包まれる。
参加チーム300以上、参加者は3万人を超え、本場高知のよさこい祭り(チーム数190、参加者2万人)を上回る規模となっている。

①大通公園でのパレード②札幌ガーデンパークでのステージ踊り③踊り前もチームワークばっちり④香美市からの参加者
札幌市で開催された第20回YOSAKOIソーラン祭りに香美市から踊り子隊と訪問団総勢38人が参加し、積丹町と17年連続でヤーレンソーラン積丹町&香美市※を結成し、参加しました。
11・12日の両日、大通公園をはじめとする札幌市内の会場で繰り広げられた本祭に参加し、6会場で、よさこい鳴子踊りと積丹町発祥の民謡ソーラン節を融合させた楽曲にのって、元氣よく踊り、大きな拍手と声援をいただきました。
※香美市27人・積丹町50人の総勢77人の踊り子隊が参加。

交流の軌跡

交流の起源

平成3年8月、当時北海道大学の学生（以下、北大生）であった長谷川岳氏が高知に在学中の兄を訪ねる。その時に、よさこい鳴子踊りを見て感動し、このエネルギーを札幌で披露したいと考えた。

YOSAKOIソーラン祭り誕生

周囲の学生を巻き込んで120名の学生実行委員会を組織し、平成4年に第1回YOSAKOIソーラン祭りが開催された。同祭りには、10チーム約千人が参加した。

積丹町との出会い

この年、実行委員会のメンバー120名が自分たちも踊りたいと、本場高知のよさこい祭りに参加することになった。

多額の費用を要するため、高知県北海道事務所を通じて格安の宿泊施設を探した。四方八方手を尽くしたが、受け入れ先がなく、同事務所の土佐山田町出身の職員が、旧土佐山田町に受け入れを打診した。

土佐山田町は受け入れを了承し、受け入れは、町内の若者グループのメンバーSTEP UP、コミュニティ21が中心となり、役場職員等に対応し、公共施設を宿泊先として提供した。

土佐山田まつりへの参加

この年、土佐山田まつりへ北ガス&学生合同チームが参加、平成6年にはヤーレンソーラン積丹町、平岸天神&学生合同チームが参加した。
※積丹町チームは同祭りへ、平成18年まで連続出場。（平成22年に参加）

広がる交流の輪

平成5年3月に、積丹町の町に灯かりをともす会から雪だるま23個が旧土佐山田町立平山小学校に贈られ、翌年、積丹町立余別小学校5・6年生が平山小学校を訪問し、親子キャンプで交流した。両校は互いに交流を深め、平成9年3月に姉妹校となった。

合同チームの誕生

土佐山田町チームは第2回YOSAKOIソーラン祭りから同祭りに出場を続け、平成7年の第4回YOSAKOIソーラン祭りで、両町の合同チームヤーレンソーラン積丹町&土佐山田町を結成し、出場。同祭りの、北海道知事賞を受賞した。

物産交流

平成9年には、商工会と役場職員が、積丹町の物産イベントおらが名物積丹まんぶく祭り（現II積丹ソーラン味覚祭り）に参加した。この年、積丹町からは14名が刃物まつりに参加した。
毎年お互いに、祭りへの参加が続いており、積丹町からは、刃物まつりに、JRコンテナ1台分の物産が送られるようになり、同

宿泊した北大生の中には、第1回YOSAKOIソーラン祭りの出場チームヤーレンソーラン積丹町のメンバー2名（積丹町職員）が同行しており、土佐山田町の若者と意気投合。積丹町との交流が始まった。

北の大地へ

翌年の第2回YOSAKOIソーラン祭りには、山田太鼓伝承会をはじめ総勢55名が参加し、積丹町を訪問した。



写真 第17回YOSAKOIソーラン祭り参加の合同チーム

祭りの、目玉のひとつとなっている。

姉妹都市締結

有志による交流事業は継続的に実施され、交流の歴史が積み重なるたびに交流の輪も広がり、両町の姉妹都市提携への気運も高まった。平成14年6月、姉妹都市締結が積丹町でなされ、同10月に、土佐山田町役場議場で姉妹都市締結調印披露式典が行われた。

連続出場の危機

お互いの財政状況を踏まえ、平成18年のYOSAKOIソーラン祭り参加を最後に、合同チームが解散されることになった。

この解散に対し、YOSAKOIソーラン祭りの主催者から、「香美市と積丹町はYOSAKOIソーラン祭りを通じて生まれた唯一の姉妹都市であり、祭りの財産であるので、ぜひとも参加してほしい」と参加要請があった。この要請を受け、両市町は、これまでの合同チームの形態を改め、振り付け指導をボランティアで行うなど、経費を抑えて、平成19年は参加料免除の招待チームとして参加した。合同チームの連続出場は、とぎれることなく今年で17回となった。

交流の歩み

平成4年	よさこい祭りに参加する北海道チームを土佐山田町が受け入れた。
平成5年	その後、土佐山田町役場、農協、商工会等が積丹町を訪問。
平成6年	積丹町の町に灯かりをともす会から平山小学校が雪だるまのプレゼントを受ける（平成7年・9年・10年にも受ける）。
平成7年	第2回YOSAKOIソーラン祭りに土佐山田町チームが初出場。
平成8年	土佐山田まつりに積丹町が初参加。
平成9年	土佐山田町姉妹都市・友好都市交流推進協議会が設立される。
平成10年	土佐山田町合併40周年記念式典にYOSAKOIソーラン祭り実行委員会が参加。
平成11年	余別小が平山小を訪問し、交流。
平成12年	積丹町・土佐山田町合同チームヤーレンソーラン積丹町&土佐山田町を編成し、YOSAKOIソーラン祭りに参加。北海道知事賞を受賞。
平成13年	積丹町の児童生徒と絵画等の交換をし、学習交流が行われる。
平成14年	平山小と余別小が姉妹校提携。
平成15年	YOSAKOIソーラン祭りの積丹町前夜祭に山田太鼓メンバーをはじめ土佐山田町45名が参加。平成18年まで続く。
平成16年	土佐山田町が積丹町のおらが名物積丹まんぶく祭りに初参加。
平成17年	積丹町が刃物まつりに初参加。
平成18年	YOSAKOIソーラン祭り、合同チームが北海道知事賞受賞。
平成19年	余別小の11名が平山小を訪問。
平成20年	季節の地場産品を土佐山田町から積丹町へプレゼント。
平成21年	平山小7名が余別小を訪問。
平成22年	積丹町前夜祭で、積丹町地域間交流推進協議会と土佐山田町姉妹都市・友好都市交流推進協議会が姉妹協議会として提携。
平成23年	平山小7名が余別小を訪問し、豪雨についての学習と料理実習。
	余別小が平山小を訪問。親子キャンプで交流。
	踊り衣装を新調。
	刃物まつり会場で、積丹町の鯨場音頭保存会が踊り披露。
	余別小・平山小のビデオレター等の交換。
	姉妹都市締結。
	土佐山田町合併50周年記念式典に積丹町が参加。
	合同チーム解散。
	合同チーム復活。
	積丹町長が刃物まつりを訪問し、平山地区で交流会が開催される。
	積丹町で、姉妹都市盟約10周年記念行事が開催される。



神威岬

かわいみさき
神威岬

大海原へとダイナミックにせり出した神威岬の先端は、周囲300度の丸みを帯びた水平線を見ることができます。岬の先端から眼下に見る神威岩は、澄みきった海中に立ちつくす乙女の化身とも言われています。遊歩道の途中から見える水無の立岩などとともに、神威岬の景観をより印象的にしています。



▲神威岩



ウニあわび井

海産物

漁業の中でも特にウニは積丹町の名物で、そのおいしさは日本でも指折りと言われています。



甘エビ



エゾカンゾウ

積丹町の町の花。花は一日花で朝に咲いたものは夕方にはしぼみます。



しまいかいど
島武意海岸

透明度が高く『日本の渚百選』にも選ばれた神秘的な美しさをたたえた海岸です。透明度の高い海からは岩盤がのぞき、ビョウブ岩のある入り江に波が寄せるさまをいつまでも見ていたくなります。



じょうこいわ
女郎子岩

沖に向かってずっと立つ女性の姿のような女郎子岩は、奥州から逃れて来た源義経と恋仲になり身投げした、地元首長の娘シララの姿が、この岩になったと言われています。



たからじま じま
宝島とゴメ島

かつて大きな富をもたらしたニシンの大群が押し寄せたことから、その名がついたと言われています。近くに浮かぶ小島は、ゴメとも呼ばれるカモメが羽を休めている姿に似ているため、ゴメ島と名付けられています。



み み しゃこたん
観て味て 積丹

～姉妹都市積丹町を紹介します～



観光と海のまち積丹町

- ★札幌市から約90km
- ★新千歳空港から車で約2時間
- ★香美市から空路・陸路あわせて約7時間

積丹町は、北海道西海岸の中央部、北西に突出している積丹半島の先端部に位置しています。積丹半島開拓の歴史は古く、明治から昭和初期にかけてニシン漁の大漁場として発展し、当時のニシン御殿・番屋・トンネル・旧街道などが保存されています。

積丹半島には数多くの伝説や逸話が伝えられており、北海道を代表する民謡ソーラン節は、ニシン漁でにぎわった積丹町



が発祥の地とされています。

産業は漁業が中心です。町内には漁港が7カ所あり、ホッケやイカ、アワビ、ウニなどの日本海の海の幸が水揚げされます。6月のウニ漁、秋のサケ漁、冬季のタラ漁と四季を通して水揚げがあります。また、積丹町の海岸はおよそ42kmあり、切り立った断崖や奇岩、シャコタンブルーと言われる**神威岬**の景観は絶景です。ニセコ積丹小樽国立公園に含まれている積丹半島と神威岬(かわいみさき)は**北海道遺産**に指定されています。

	積丹町	香美市
人口	2,544人	27,981人
面積	238.21km ²	538.22km ²
年平均気温	7.5℃	14.9℃

人口は平成23年5月31日現在の住民基本台帳に基づく。